

看護基礎教育における 解剖見学実習のあり方についての検討

—解剖見学実習に関する文献から見る今日の動向から—

三木喜美子 佐野宏一郎 乙黒仁美 高村かおり 竹村眞理
健康科学大学 看護学部 看護学科

Examination of anatomical observation practice in basic nursing education:

Based on current trends derived from literature review

MIKI Kimiko, SANO Koichiro, OTOGURO Hitomi,
TAKAMURA Kaori, TAKEMURA Mari

要 旨

本学部では、開設時の平成28年度から現在（平成30年度）に至るまでご遺体を用いた肉眼的解剖見学実習を行ってきた。主に、本学健康科学部の解剖学教員および山梨大学医学部解剖学教室の協力を得、肉眼的解剖学実習が行われてきた。看護学部の教員は、必要物品の準備と共に実施に向けてのオリエンテーションおよび倫理的側面の講義等を担当してきた。

看護基礎教育における解剖学教育について2000年に看護学の視点で行う必要があると提言され、具体的には2017年頃からの文献で検討され始めている。筆者らは、本学部の今後の解剖学実習のありかたを検討するために文献検索を行った。発表された看護系大学で行われた解剖見学実習に関する文献を検討した結果、解剖見学実習の実施方法、事後の学生の学びについての集計が主になっていることが分かった。従来行われている解剖見学実習は、学生が人体の形態・機能を学ぶことに多大な効果を与え、また生命や、医療職者としての倫理教育の機会になっていることが明らかになった。

看護学の視点での解剖学の教育について志向する一方で、筆者らは現在実施している解剖見学実習における学生の学びや学習意欲を充実させていく方向でも検討していく必要がある。

キーワード：看護基礎教育，看護解剖見学実習，看護学の視点

I.はじめに

1997年、看護婦・看護師学校養成所指定規則の改正では、従来の解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学及び微生物学の内容を含むものとして「人体の構造と機能」および「疾病の成り立ちと回復の促進」に変更された。この理由は、看護の視点より弾力的に授業を再編することが期待されているからであった。菱沼らは1993年度

より「解剖生理学」の医学モデルから看護学モデルへの変更を試み、1995年度から「解剖生理学」と「病理学」を統合し「形態機能学」と「形態機能学演習」を設定し、これらの学習が看護ケアの展開に繋がることを目指し精力的に取りくんできている経緯がある¹⁾。しかし、「人体の構造と機能」に関する領域は、近年看護系大学の新設、短大から4年制への組織改変、大学院設置等のめまぐる

しい変革の中で、ほとんどは医学部など他領域からの非常勤講師が担当し、看護の枠組みの中で何を教えればいいのか戸惑いがみられる現状があるといわれている（文献番号23）。

1993年から解剖学会有志により毎年懇話会が行われ2000年に「看護学における解剖学教育の現状と問題点」が議論された。菱沼はここで看護学の視点から「日常生活行動を主軸に再構築した形態機能学の枠組み」を解説している。しかし生活行動を主軸にする形態機能学の視点は肯定されているものの、皮相的な解剖生理学の知識の獲得で終わってしまうことが危惧されている。すでに確立した学問体系と膨大な知識の集積のある形態機能学について、医療者のリテラシーを捉え、看護の視点にとらわれず専門的な知識として教え、学生の中で統合するほうが成熟した教育ができるという見方もある²⁾。

本学部において、専門教育関連科目に位置づけている人体構造機能学Ⅲを担当される健康科学部教員の企画によって山梨大学医学部解剖学教室・本学健康科学部の医系教職員の協力を得て、平成28年度からご遺体を用いた肉眼的解剖見学実習を行っている。解剖見学実習を取り入れている看護系大学は、全国の看護師養成機関において、3割（平成28年）といわれている。そのうち私学においては2割である。

このことから、本学部は貴重な学習環境を得ていると考える。看護学部の教員は、引率教員として解剖見学実習前の献体制度ならびに倫理的な側面の講義を中心に、必要物品の提示、見学時に使用する物品の準備、学生の交通手段別の集合確認等の役割をとってきた。看護教員としては、学生が解剖見学実習体験を看護学の学習継続として活かすことを期待している。科目担当教員による人体構造機能学における知識の定着を確認するためのアンケート調査は実施されてきたが、その後の看護学を学習するに当たりどのように活用されてきたかについては確認できていない現状である。

そこで、解剖見学実習について各大学で発表された文献を用い、看護師養成機関において現在行われている解剖見学実習の考え方について見学上

の工夫等を含めた実態を明らかにし、本学部の解剖見学実習の今後のあり方を検討する目的で文献探索を行ったので報告する。

II 方法

メディカルオンライン・最新看護索引web・医学中央雑誌（1998年～2017年）にてキーワードを「看護」・「解剖」・「見学実習」とし検索した結果ヒットした25文献を研究者間で精読し、研究対象が看護学生以外及び内容が看護教育以外を取り扱った2文献を削除した。23文献を分析対象にした。

23文献は、年代順に整理し、一覧表（別紙）を作成し、分析データとした。

III 結果

1. 文献の種類

文献の分類は、著作者記載に従った記載のないものについては「その他」に分類した結果、以下ようになった。

論文種類	件数
原著論文	6
報告	1
その他	16
計	23

2. 年代別文献数

年代	件数
1998年	1
2000～2006年	5
2007～2010年	5
2011～2015年	9
2017年	3
計	23

3. 目的別分類

文献の要約から1998年～2015年には解剖見学実習の実施方法、実施に関連した学習環境としての調整に工夫していることが散見された。さらに、解剖見学実習の学びについては、目的にしていな調査であっても自由記載の分析から学びを明ら

かにしている文献が見られた。看護基礎教育における解剖見学実習のあり方として医学的枠組みによる従来の解剖見学実習を看護の枠組みによるものにする必要の提言（文献番号2）が2000年に行われ、2017年には看護系大学の解剖見学実習の実態調査をふまえ看護の枠組みでの解剖見学実習の必要性や試みについて論述されている文献は以下に示す。

- 1) 解剖生理学実習のあり方を明確にする
1件 2008年
- 2) 解剖見学実習の実施方法について
17件 1998年~2015年
- 3) 解剖見学実習からの学びを明らかにする
1件 2012年
- 4) 看護としての解剖学実習について
4件 2017年

4. 文献一覧表（文末資料1参照）

IV 考察

1. 文献に見られる解剖見学実習の位置づけと展開方法

筆者らが集めた文献（別表）の要約から、今まで行われてきた看護基礎教育における解剖見学実習の検討は、3種類に分類できるのではないかと考える。

- 1) 解剖見学実習位置づけ（人体構造機能学科目）に関連した実習の方法
- 2) 解剖見学実習の展開方法（教材・対象学年・方法）
- 3) 従来の医学的枠組みで行われてきた解剖学教育を看護的枠組みで行う必要性の提言および課題

2017年以降の文献に、看護学の視点での解剖見学実習について各大学で試行段階の内容が公開されている。

しかし、その具体的な学習指導の方法と、人体構造機能学の膨大な知識を学生に教授するための整理の仕方は今後の検討事項である（文献番号4）。4年制看護系大学253校の調査では（文献番号23）、科目担当の教員は概ね医師で看護師

は6.2%であった。これらのことから、看護の視点で解剖見学実習を企画運営・指導できる能力をもった看護教員の養成が必要になる。

2. ご遺体を用いた解剖見学実習の学習成果

従来の解剖見学実習で学生が学んでいることは概ね2つの要素があった。

- 1) 実物の臓器を見学したことによる成果
- 2) 人文社会的な見地からの学習成果
（倫理的側面、死生観など）

である。

ご遺体を用いた解剖見学実習を行っている割合は2016年の調査（文献番号23）では全国レベルで253校の4年制看護系大学において3割であった。その内訳は、国立4割強、公立3割、私立2割（文献番号23）と報告されている。

各文献における分析データは、実習後のアンケート調査内容である。学生の多くは自由記載で、実際のご遺体を用いた解剖見学実習において、実物の臓器は教科書からイメージしたものとは違ったこと、本物の臓器を自分の目で観察するだけでなく実際に触れることでその形や重さを実感できることが学生にとって新鮮な驚きであり学習意欲の向上に繋がると述べている。模型や、他動物の臓器を用いた学習も試みられているが（文献番号14）実体験に勝るものはないと思われる。また、採血等看護技術に関連する臓器の観察は役に立ったと述べている。人体の仕組みを知ることの面白さを短時間の見学であっても感じている。以上のことから解剖見学実習そのものが看護職になることを目的にした学習意欲促進に効果的に影響しているといえる。

また人文社会的な見地からの成果は、実習前に行う献体制度、遺体の保護などに関連する法的・倫理的態度教育を含む準備に影響されていることも考えられる。

しかし実際のご遺体を目の前にすることは、机上で教育される以上の強烈な印象と共に単なる知識だけではなく死生観、命とはなにか等、看護学の視点で人間を捉える機会を学生に与えている。看護学生は、解剖見学実習が提示された段階では、

一般の学生同様に、「怖い」「気持ち悪くなるかもしれない」など恐怖と不安に悩まされるようであるが、解剖見学実習を終えると（文献番号1）学生は医療職を目指す看護学生としての自覚をもてるように変化している。これらは、看護学生が他学科の学生と一緒に学ぶこと、また解剖見学実習の時期等によっても相違が見られている（文献番号19・20）

V 本学における解剖見学実習の展開と次年度に向けた課題

本学の場合は、幸いにも健康科学部が従来継続されてきた解剖見学実習日程に入ることができ、解剖見学を実施している看護系大学実施率全国3割という希少価値のある実習に恵まれている。

現段階では、解剖見学実習を担当できる看護教員はいない。今後、看護学の視点で人体について学ぶことを（文献番号2）伝えられる教員の養成は急務である。

次年度は、人体構造機能学Ⅲの一環として行われる解剖見学実習がその後2年次、3年次、4年次の看護学の学びにどのような影響をもたらしているかを明らかにし、解剖見学実習で得た知識や学習への意欲が、看護を行う上で必要とされることを解明し、看護学の学習が発展していくよう検討したいと考えている。

引用文献

- 1) 坂下玲子, 内布敦子他:学生が求める看護形態機能学教育.看護教育45巻12号.医学書院.p1094-113.2004.
- 2) 同上, p1094-120

解剖見学実習についての先行研究文献（1998年～2017年）

資料 1

文献番号	出版年	文献種類	著者	タイトル	出典	教育機関種類
1	1998	原著論文	今本喜久子、 徳永祥子	4年生看護教育における人体解剖生理学実習	日本看護研究学会雑誌 Vol.21. No.1	看護系大学
2	2000	その他	菱沼典子	看護学の望む人体構造学の内容と人材の育成	Quality Nursing Vol.6 No.8	看護系大学
3	2000	その他	古屋敷明美、 田村典子、 石野レイ子、他	看護学科における解剖遺体見学実習の意義	広島県立保健福祉短期大学 紀要5（1）	看護系短期大学
4	2002	その他	山邊素子、 佐藤香代	看護学教育における専門基礎教科の課題を 探る―医学部人体解剖学セミナーに参加して	九州大学紀要 Vol4 No1	看護系大学
5	2004	研究報告	藤井徹也、 佐藤美紀、 渡邊皓、他	臨床で働く看護師の解剖学知識に対する認識と 受講した解剖学教育との関連	日本看護技術学会誌 Vol3 No2	看護系大学
6	2006	その他	下高原理恵、 今村利香	看護学生が解剖見学実習を通して学んだもの ―4学校の実習後のレポート分析より	看護教育 2006	鹿児島大学大学院 医歯総合研究科歯 科応用解剖学分野
7	2007	その他	川城由紀子、 宮宗秀伸、 松野義晴、他	解剖見学実習における看護学生への教育効果 ―第2報―	解剖学雑誌第82巻	看護系大学
8	2008	原著論文	熊谷晶子、 竹村眞理、 山下麻実、他	看護基礎教育における解剖見学実習の教育効果 その1	横浜創英短大紀要第5号	看護系短大
9	2008	その他	梶原江美、 清村紀子、 鹿嶋聡子、他	看護形態機能学の知識習得に関連したバリアと ニードの構造	西南女学院大学紀要 Vol.12	看護系大学
10	2009	その他	六車輝美、 松本由樹、 三木宗範、他	フィジカルアセスメント教育に向けた系統解剖 見学実習の活用法―看護学科における試み―	日本解剖学会解剖誌 84.2008	看護系大学
11	2010	原著論文	熊谷晶子、 竹村眞理、 吉川奈緒美、他	看護基礎教育における解剖見学実習の 教育効果その2	横浜創英短大紀要第6号	看護系短大
12	2011	原著論文	熊谷晶子、 竹村眞理、 吉川奈緒美、他	看護基礎教育における解剖見学実習の 教育効果その3	横浜創英短大紀要第7号	看護系短大
13	2011	抄録	井之口文月、 木村智子、 中村浩、他	看護学教育における人体解剖見学実習の現状と 課題	形態・機能第10巻、第1号	看護系大学
14	2012	その他	井之口文月、 木村智子、 中村浩、他	看護学生を対象とした人体解剖見学実習	解剖学雑誌代87巻第2号	看護系大学
15	2012	その他	井之口文月、 松田和郎、 宇田川潤、他	人体解剖見学実習における看護学生の学びと 教員からの要望	日本看護研究学会雑誌 Vol.35. No.3	看護系大学
16	2012	その他	森陽子、 七里佳代	解剖見学実習の教育効果―解剖見学実習後の レポート分析から	日本看護研究学会雑誌 Vol.35. No.3	看護専門学校
17	2013	その他	井之口文月、 松田和郎、 相見良成、他	看護学生を対象とした人体解剖見学実習 -アンケートによる評価	日本看護研究学会雑誌 Vol.36. No.4	看護系大学
18	2014	その他	井之口文月、 相見良成、 工藤 基、他	看護学生を対象とした人体解剖見学実習の 指導体制と満足度	日本看護研究学会雑誌 Vol.37. No.3	看護系大学
19	2015	その他	片桐展子、 片桐康雄、 外崎敬和、他	弘前学院大学看護学部における 人体解剖実習見学に関する学生の意識調査	弘前学院大学看護紀要第 10巻35-46	看護系大学
20	2015	その他	古屋肇子、 野村幸子、 安部真幸、他	看護学科学生の解剖見学実習の意義	大阪青山大学紀要8巻 97-105	看護系大学
21	2017	研究ノ ート	清水容子、 蓮池光人、 外村昌子、他	本学看護学科における解剖見学実習による 学生の学びと今後の課題―解剖見学実習後の レポートの内容分析から	森の宮医療大学紀要 第11号111-126	看護系大学
22	2017	その他	小倉久美子、 川村諒、 篠田かおる、他	学生の学習動機づけと総合的解剖学実習の 取り組みとの関連	愛知医科大学看護学紀要 第16号 2017	看護系大学
23	2017	原著論文	向井加奈恵、 山口豪、 大島千佳、他	看護系大学における解剖生理学教育の実態調査	形態・機能第16巻第1号	看護系大学